

平成 28 年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 3 月 7 日 (火) 午後 3 時～4 時 50 分
- 2 会 場 同志社 新島会館 別館 2 階 貴賓室
- 3 出席者 評議委員：上原恵美，鈴木久男，龍村光峯，田端泰子，野口実，藤瀬祥子，平井和  
歴史資料館：井上館長，宮崎次長，村上担当係長 他
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第 7 条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席委員・当館出席者紹介

(4) 平成 28 年度事業報告説明 (資料 2 参照)

平成 28 年度の展示事業について，京都文化博物館特別展「実相院門跡展－幽境の名刹」の共催での実施，特別展 叢書京都の史料刊行記念「内裏図の世界 - 京都御所と公家町 -」，「よみがえる伏見城」(京都市考古資料館共催)，「鴨川・高瀬川流域の人と暮らし - 今村家文書の世界 -」，企画展 旧三井家下鴨別邸修復公開記念「三井家と京都－三井別家の文化 -」，テーマ展「絵図のまなざし」及び「京・地域の暮らし 2 大原－生活と信仰－」の開催について報告。今年度から新たに時宜に適した題材を紹介しているスポット展示について，「京都市参事会文書」，「祇園祭の『ねりもの』」，「お千度参りと安政コレラ」，「若冲が生まれた町 - 中魚屋町の古文書 -」及び「大坂の陣と真田幸村」の開催について報告。展示にあわせた歴史講座「よみがえる伏見城」，「絵図，それぞれの使いみち」，連続講座「東山区今村家の歴史遺産」の開催，今年度から春期と秋期に分け，入門編と基礎編ないし中級編を設け実施した連続講座「古文書を楽しく読もう！」，「京のまちをタイムトラベル」と題し，昔の地図を見ながら作業をしてもらう形で実施した夏休み親子歴史教室について報告。

テーマ展「京・地域の暮らし 2 大原」の関連事業として開催予定のシンポジウム，グルメ紀行及びフィールドワークについて報告。

京都アスニー・アスニー山科との協力講座「学びのフォーラムやましな」，「アスニーセミナー」及び「ゴールデンエイジアアカデミー」への出講，今村家文書に関連して柳原銀行記念資料館との連携による展示・シンポジウム，上京区役所との連携による京都御苑に関する講座，環境省京都御苑管理事務所との連携による閑院宮邸跡公開 10 周年記念講演の実施について報告。

また，1948 年発生のジフテリア予防接種被害事件の資料の歴史的公文書としての保管について報告。

資料の供用・普及について所蔵資料・図書の公開，歴史相談の実施，「叢書 京都の史料 第 15 回配本『久多庄文書』」の編集作業の進捗，『京都市歴史資料館紀要』第 27 号の年度内刊行予定とともに，史料管理システムや情報提供システム「フィールドミュージアム京都」の整備，「いしぶみリスト」の京都市オープンデータポータルサイトでの公開，博物館実習生の受入について報告。

施設利用状況について，来館者数は 2 月末時点で，昨年同時期と比べ約 33 パーセント増加し 2 万人を超え，年度末には 2 万 2 千人位と想定していること，資料の閲覧は昨年度より約 15 パーセント増，歴

史相談は約 18 パーセント減、ホームページのアクセス状況は、閲覧数としては少しずつ増える傾向にあり、今年度はすでに昨年の数を上回っていることを報告。

(5) 質疑

[評議委員] 来館者数は平成 25 年度が多く、次いで今年度も 2 万人を超えている。どういう理由によるのか。

[資料館] 平成 25 年度は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の影響で新島旧邸を訪れた方が来館されたためと考えられる。今年度は、連携企画の開催やスポット展示の実施、京都御所の通年公開に伴う界限を訪れる方の増加等が要因と考えられる。

[評議委員] 周辺の状態の変化とともに来館者数が伸びるのはよいこと。御所に資料館の案内があり、来館者を誘導できるとなおよい。

[資料館] 京都御苑管理事務所とも連携企画として講演を行っている。

[評議委員] 京都文化博物館もあり、連携によって歴史資料館も注目されるとよい。

[資料館] 歴史講座「よみがえる伏見城」は伏見区役所と連携して広報を行い、280 名を超える応募があり、区役所に大きな会場を使用させていただいた。歴史資料館の活動を知っていただく良い機会となった。

[評議委員] どの講座も参加者が多く、それだけ熱心に学びたい方がいらっしゃるということ。

[評議委員] 入館者が 30 パーセント増えたのはすごいことだと思うが、どの年齢層が多いのか。

[資料館] 窓口での印象では、年齢層は高めと思われる。

[評議委員] 地域の歴史について、その地域で話をするのはとても大事。大原のように地域と一緒に活動するのもよいこと。地域の歴史の掘り起こしによって関心が高まれば来館者も増えると思う。大原のグルメ紀行について食に関係のある学校への呼びかけは行っているか。

[資料館] そうした学校への広報は特に行っていない。広報については、従来の広報手段だけでなく、鴨川・高瀬川の連続講座では、東山区役所と連携して関係学区の会長への説明など参加者増に努めている。

[評議委員] 今村家の場合は地域の方も関心が高いと思う。「三井家と京都」の展示でもNHKのドラマ「あさがきた」関連の企画として打ち出していくこともできたかと思う。

[資料館] 今年度から始めたスポット展示も活用しながら、時宜に適した企画を行っていきたいと考えている。

[評議委員] 来館者が平成 25 年度に 2 万 5 千人、平成 28 年度 2 万人ということだが、来年度もこの数字を維持できるような工夫を考えているか。

[資料館] 来年度は大政奉還 150 年の記念事業として展示の広報ができると思う。ホームページについては、国の文化遺産オンラインにも再度登録し、大原の展示を閲覧できるようにした。他機関等とも連携し情報を発信していく。市のオープンデータを通した御意見もいただいている。

[評議委員] 御所の通年公開、迎賓館の公開も始まっている。御所や迎賓館を訪れた方に歴史資料館へ足を運んでもらえるよう、館からガイドを派遣し双方を案内するなどのしくみを考えていただきたい。

歴彩館が 4 月から本格オープンするが、歴史資料館の資料を歴彩館で紹介したり、歴彩館の資料を歴史資料館で展示するなど連携して欲しい。文化庁の京都移転を踏まえて、オール京都

の視点をしっかりと持って欲しい。

[資料館] 上京区というレベルでは行政推進会議という組織があり歴史資料館、考古資料館、御苑管理事務所も加わり情報交換している。来館してもらうことについて連携を進めていきたい。歴彩館からは、来年度の展示事業で所蔵資料を借用する予定であり、文化博物館とも連携を考えている。見える形でなかなか進められていない部分もあるが、歴史資料館の役割を打ち出していく必要があると考えている。

[評議委員] 夏休み親子歴史教室について、評議委員会での指摘も踏まえ内容を変更したというが、「大文字」を見ながら子どもと一緒にその歴史を学ぶ良い機会なので、継続してほしい。また、次世代の歴史好きを増やしていこうとするなら、募集定員が50名では心もとないと思う。

[資料館] 来年度の夏休み親子歴史教室では地蔵盆の歴史的な背景を学んでもらう予定。今年度は地図をもとに学習してもらったが、小学校4年生から6年生までを対象としているので、テーマを三つくらい用意し順番にやっていけば、3年間継続して参加することもできる。どういうふうにすれば子どもたちに歴史に関心を持ってもらえるのかを考え進めていきたい。

[評議委員] 地蔵盆を親子歴史教室で扱う場合どういう方法を考えているか。

[資料館] 京都の場合、地蔵盆は宗教的な行事という側面よりも、歴史的なもので生活の中に根づいた行事であると理解している。歴史資料館で地蔵盆を行うのではなく、壬生寺等で数珠繰りを体験してもらうこと等を考えている。図書のみで学ぶのではなく、今年度の地図による作業のように、実際に体験してもらうことで、子どもたちに歴史に関心をもってもらえると考えている。

#### (6) 平成29年度事業計画説明（資料3参照）

展示については、企画展として江戸時代後半に「休み山」となった祇園祭の鷹山の復興に向けた取り組みを支援する歴彩館との連携展示「鷹山ふたたび - 祇園祭鷹山復興支援展 -」、テーマ展として『燈心文庫』から室町時代の資料を展示する「燈心文庫にみる室町時代の諸相」（仮称）、二条城を中心として行われる大政奉還150年記念事業の一環として、重要文化財「岩倉具視関係資料」を活用した特別展「岩倉具視の生きた時代」、大塚コレクションの追加寄贈分を中心としたテーマ展「江戸時代の京都ニュース - 続・大塚コレクション展 -」を行うことを報告。スポット展示では、市政史、桂女、福王子神社の狛犬などの紹介予定について報告。

展示に関連する歴史講座については「祇園祭山鉦の復興物語」、「燈心文庫にみる室町京都とその周縁」、「岩倉具視と明治国家の出發」、「江戸時代の京都ニュース」（仮称）及び鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業としてシンポジウム、フィールドワークを行うことを報告。

連続講座「古文書を楽しく読もう！」は28年度と同様、春期と秋期に、入門編と応用編に分け、内容をわかりやすいよう表すタイトルを付けて実施すること、夏休み親子歴史教室は、「お地蔵さんと地蔵盆 - まちかどの仏たち -」として体験を交えた講座を行うこと、京都アスニー・アスニー山科との協力講座として「アスニー京都学講座」、「学びのフォーラムやましな」に出講することを説明。

資料の供用・普及について、「叢書 京都の史料」第15回配本「久多荘文書」の刊行、例年の博物館実習に加え、インターンシップの受け入れについて報告。

また、資料の活用・整理について、歴史資料館の収蔵庫の状況がかなり逼迫していることから、収蔵場所の確保等について、来年度の評議委員会には説明できるよう検討して行くことを報告。

#### (7) 質疑応答

- [評議委員] 映像展示は更新されているのか。
- [資料館] 映像展示を増やすことに、なかなか予算をつぎ込めない状況にある。
- [評議委員] そろそろ予算化して新しくしないと、30年前の状態のままではどうかと思う。  
市史・地域史の編纂は更新していく必要がある。事業として立ち上げるのは大変だと思うが、歴史資料館が主体となって更新を進めてもらいたい。市史が編纂されてからずいぶんになるが、この間歴史に対する見方、全体史の中での京都の位置づけも変化しているので、常に更新していかないと自治体史の編纂はできないことを、京都市が率先垂範して示さないといけないと思うので、ぜひ働きかけて欲しい。
- [資料館] 今できるのは所蔵資料を整理し、さらに資料を収集し将来に備えることなので、調査・研究を進めつつ、要望を伝えていきたい。
- [評議委員] 予算については大変だと思うが、収蔵庫の課題も、評議委員会議など外部の強い意見などを反映していくことも大切だと思う。そういう利用をされてはいいかがか。
- [資料館] そのように活用させていただきたい。予算については鴨川・高瀬川の事業のように、国からの補助を活用することについても検討を進めたい。
- [評議委員] 市史の編纂は何年かかけたらできるというものではない。あれだけのレベルの京都市史がある以上、それを超えるものを編纂しようとするとな日常的にどこかの機関が研究を進めていかないといけない。その役割は歴史資料館だと思うので、予算要求ごとに言うておかななくてはならない。収蔵庫も近隣の小学校に空いたスペースがあれば活用するなど、早く言うておかないとだめだ。資料は増えていく一方であり、いつもいつも要求をするという形でやってもらいたい。
- [資料館] 歴史資料館は昭和57年に開館し、30年以上が経過しており、空調など施設面でもいろいろと問題がある。引き続き伝えていきたい。
- [評議委員] 文化庁が京都に移転することが決まり、京都府は歴史館という大きな施設を設けたが、京都市も考古資料館、歴史資料館が手狭な中で歴史資料・民俗資料といった歴史遺産をどう活用するのか、市民にどう情報提供するのかを考えると、市の総合歴史館のような施設が必要だと思う。文化市民局で、京都市が持っている資料をもとに今後どういう博物館にしていくかという目標はあるのか。
- [資料館] 歴史資料館、考古資料館をどうするか、京都に来られる方がここに行けば京都の歴史がわかるという施設ができないかということは、当館、各館、文化財保護課、文化市民局としても、どこに場所を求めるか等も含めて検討しているが、報告させてもらうところまではきていない。また、学校施設の活用は地元としての御意見もあり、簡単には進まない。
- [評議委員] 元の府立総合資料館の跡地の利用はどうなるのか。
- [資料館] 府が考え方をまとめられるようである。
- [評議委員] 鴨川・高瀬川地域について地域の再開発プロジェクトが動き出していると思うが、地域活性化に関連させてとか、市立芸大や高校が移転するという周辺地区が大きく変わろうとしている中で、歴史資料の公開場所を求めていく必要があると思う。文化庁移転にもかかわらず、市の資料をどこで見ればいいのかということになりかねないので、大きく京都市のプロジェクトとして提言していけるようにし欲しい。京都市史についても、歴史資料館だけではなく、市史の編纂、資料の公開をセットでできるようにやっていただきたい。

[資料館] 京都市は平成 30 年代に市庁舎の改築，市立芸大の移転など大きく動く。そういう状況の中で何ができるのかを考えるようにと言っていたと思う。そうしたことを考えていくのは大切だと思う。一方で所蔵しているものを情報・データで見えていただいて，現物はこういう場所に行けば見えていただけますという方法をとることも考える必要があると思う。事業計画の「資料の活用・整理についての検討」では，現在ある施設の活用や今言っていたこと等について考えていくことになる。

[評議委員] すでに文化庁移転や市立大学移転，市役所の新庁舎等が動き出している段階で，考えるというのでは遅い。

[資料館] 今は，考えるとしか言えない

[評議委員] この話は京都市行政全体の中で，大きなプロジェクトが動く中に位置づけてもらうようにしないと，歴史資料館レベルで言ってもなかなか動かない。

[資料館] 歴史資料館だけでなく考古資料館，文化市民局，文化財保護課も当然課題と考えている。全体としてもっと大きなこととどう結びつけるかを含めて進めていかないといけないと考えている。

[評議委員] 評議委員会議としても，是非にやって欲しいという意向を持っていることが確認できればと思う。

[評議委員] それを具体的に文書にして文化市民局長に提出する，あるいは評議委員会議として資料が満杯で更新もできないという現状を文書にして訴えていく必要があると思う。

[資料館] 現状をいかに伝えていくかということについては，明確にできているとはなかなか申し上げられないが，事業計画の中にこれまでになかった「資料の活用・整理についての検討」を加えたのは，決意を示したものだ。

[評議委員] 行政がなかなか動かないのは身をもって知っているが，その際にエールを送ってくれるのは理事会であり評議委員会議。簡単ではないと思うが，毎年局に対して訴えていけば改善されると思う。ぜひ委員が意見を言っていることを伝えていくようお願いする。紙資料を適切に保存するには，温湿度の管理等の空調設備が必要。保管先がどこでもいいというわけにはいかない。

[資料館] 原資料はもちろん館で保管するしかない。

[評議委員] 動画は新調して欲しいとずっと思っている。京都市がこれまで製作しているものを編集するといった方法もある。予算的に難しいと思うが，負けないでやっていただきたい。

#### (8) 歴史資料館運営予算について（資料 4 参照）

平成 29 年度の予算（一般経費）は平成 28 年度より少し減少しているが，施設の管理，展示についてはほぼ同額を確保していること，特別経費については「鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業」に国の助成をいただくこと，史料叢書刊行は管理運営に一本化していることを説明。

#### (9) 質疑応答

[評議委員] 平成 29 年度の 320 万円の特別経費は国庫補助金か。

[資料館] 鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業の助成です。

[評議委員] 平成 28 年度の 680 万円も全額国庫補助金か。

[資料館] 680 万円のうち 380 万円が国からの助成，残りの 300 万円は岩倉具視関係資料の修復に係る経費。管理運営とは違うということでここに記している。

[評議委員] 文化庁の補助金は、この歳入・歳出の表の中ではわかりにくい。国からの補助金をいくらもらっているという記載が必要。また、来年度の大政奉還 150 周年記念事業に関わって、京都市からの費用助成についても説明いただきたい。

[資料館] 平成 29 年度の特別経費としては、「鴨川・高瀬川」で助成の申請をしている金額のみ。大政奉還 150 周年記念事業では岩倉具視関係資料を展示しますが、一般経費の中で通常の事業として展示を行う。広報については連携していくことになっている。国の助成の表記については「鴨川・高瀬川」が平成 28 年度と 29 年度に計上されているが、これまでこうした取り組みがなかったためにこうした表になっている。今後わかりやすい示し方を工夫していきたい。

[評議委員] 特別事業を一般経費でやらないといけないということでは、企画内容の充実が図れないし、資料の充実も図れないことにつながるので、特別事業については京都市の文化的事業に関連させて予算を要求していくべき。

メディア関係から資料の利用についても使用料を徴収するべきではないか。そうした経営努力を予算面でもわかるよう工夫すべき。

[資料館] 要求はしたが、認められなかった。予算を充実させたい思いはあるので、工夫していきたい。

[評議委員] 現在、資料の利用料、貸出料は決まっているのか。

[資料館] 無料です。

[評議委員] そうした規定がなく、入館料も無料だから料金は取れない。

[評議委員] 資料の貸し出しに関する時間や労力など経費の負担も生じると思うので、たとえば国や市の指定品については、京都市美術館の事例も参考に、負担をお願いすることも必要になってくるかと思う。

[資料館] 研究していきたい。

[評議委員] 有料になると研究には困る。

[資料館] 有料にすれば歴史資料館には取材しなくなる。取材しなくなると広報の機会を失うことになるので、そこをどう考えるか。「洛中洛外図屏風」上杉本などは、もし無料ということになれば利用が殺到するので、その事務手続として利用料を徴収しているが、特殊な事例である。

[評議委員] 公共のものは無料というのが基本だと思う。

[資料館] 利用してもらったものをデジタルデータで提供してもらい、市民に還元するという方策も探していきたい。

[評議委員] すべてに費用負担を求めるということではなく、貴重なものについては保管の費用や取り扱いに要する手間もかかるので、学術目的での利用は無料で、メディアの利用には手数料を徴収するなど、硬軟取り合わせた資料の保存・活用があってもいいと思う。

[資料館] まだいろいろと御意見はあると思いますが、時間も参りましたので以上をもちまして区切りとさせていただきます。ありがとうございます。

#### (10) 閉会挨拶

本日は長時間ありがとうございました。京都市歴史資料館は非常に小さな館ではありますが、京都にとっては大切な施設です。また、日本にとっても同様な意味を持つものだと思って、私ども館員も日々頑張っております。今後ともよろしくご指導いただくことをお願い申し上げます。ありがとうございました。